



日 口 交 流

発行 : 特定非営利活動法人 日口交流協会

E-mail:nichiro@nichiro.org

Home Page http://www.nichiro.org

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax : 03 (5563) 0752



第18回日本文化交流団 (イルクーツク)

千葉 麻里

伝統文化親子教室を都内の語学学校で始めたことがきっかけで、そのナタリヤさんの依頼でイルクーツクへ日本の伝統文化を紹介することとなった。受け入れは露日協会イルクーツク支部とイルクーツク市長。5月12日(日)から16日(木)の短期間だが、週2便成田からの直行便が飛んでいる関係で、フライト時間は5時間とそれほど長くはない。

到着は夜中で、13日は午前中旅の疲れをとり午後からちぎり絵講習会。間に市内見学をして19時からレストラン「京都」でのきものデモンストレーションと、ホテルの広間で剣術講習会を同時進行した。剣術は地元の合気道連盟が主体となって助手も出してくれた。合気道はロシア全土でたいへん盛んで、どこへ行っても愛好家のグループがある。レストラン「京都」では、2日間にわたって夕食を頂いたが、本格的な日本料理で食材も空輸させているという。巻き寿司も予想に反してとても良かった。

14日はちぎり絵と同様、図書館で風呂敷講習会。午後は工芸館でちぎり絵と友禅の講習会を実施した。ここは未来の工芸作家を育てるところで、身体に障害のある子どもも自立できるように手に職がつけられる。参加した子ども達は皆熱心で優秀だった。友禅の特徴をすぐに把握してしまった子もいて、暈しや淡い色を作って駆使するのには感心するばかりだった。

先生の上手な音頭とりで踊ったり、歓迎の歌やゲームで子ども達と楽しんだ。ここでは多くの職人がボランティアで子ども達の才能を伸ばしている。ところ狭しと並んだ作品は、皆、伸び伸びとして明るかった。

この日の剣術講習会は地元の剣道連盟が主催だった。会場は学校で、子ども達が楽しみにしていた。女性3名は「京都」に移動して花ふきんの講習会。目を閉じて針に糸が通せるというベテランの和裁の渡邊絹江先生の指導で子どもや大人が晒しに刺繍糸で模様を辿っていく。漢字が人気があり、「春」を選んだ人が多かった。ここでは針仕事の経験の有無がはっきり出



る。15日は州立郷土博物館で友禅講習会。会場は時代ものの調度などの美しい展示品で飾られており、友禅の伝統工芸師である笠原先生の作品がとても相応しい場所に思えた。若い人たちも良く準備を手伝ってくれて、博物館のスタッフも足りないものをすぐに調達してくれたり大変協力的だった。

昼食後はバイカル湖へ行く予定だったが、剣術の望月さんだけ車でリストビャンカ村へ向かい、他の3名は市内を見学しつつ日本の友人達へのお土産を探し歩いた。私は学校で頂いて美味しかったアゼルチャイという紅茶やこの地域のハーブの入ったお茶、蜂蜜を買った。

この日の午後は、博物館で私達だけのためにコンサートを開き、館長自ら館内を案内してくれ、ロシア料理でもてなしてくれた。何度も乾杯を重ね、イルクーツクについての印象などを聞かれたり友好を誓ったり…。ドゥブロービン会長も文化庁のチェルヌイシェフ氏も非常に関心を持って歓待してくれた。

ちぎり絵では、何枚もヒダを作って重ねて立体感を出したり、下敷きの新聞紙を千切って貼ったりと極めて個性的な作品ができた。風呂敷講習会でも飲み込みが早く、予定より多く時間内に教えることができた。通訳のレベルも高く、女性陣についてナージャさんは気配りも細やかな温かい人で、いつも助けてくれるモスクワのターニャを思い出した。

国立大に日本語教師として派遣されていた中川先生と留学生の方が街を案内してくれたのも思い出深い。しかもイルクーツク紹介記事を書いてくれることになった。思いがけず、素晴らしい出会いが重なり、実に有意義な訪問となった。窓口となってくれたエゴロワさんにも感謝したい。また、今回の催し物について、ハバロフスク日本国総領事館の門倉首席領事にネット配信していただく等、色々ご助力頂いた。最後に見送りの方から再訪と今後の継続的な友好を望むという市長からの言伝をあらためて頂戴した。(常任理事)

お知らせ

●ロシア語クラス生徒募集中！見学希望の方ご連絡下さい。入門、初級、中級、上級など月4回、5500円×3ヶ月分前納

●第32回麻布区民センターふれあい祭り

日時：2019年10月19日(土)20日(日) 入場無料

*19日にロシア民謡を楽しむ会、20日にロシアンカが出演。

●第62回マトリョーシカ絵付け教室

日時：2019年7月27日(土)13:00～16:00

講師：菅野エレナ

場所：田町駅みなとパーク芝浦「リーブラ」2階造形表現室

会費：3,000円(お好きな教材1セット、講師代、お茶代含む)

●第63回マトリョーシカ絵付け教室

日時：2019年8月24日(土)13:00～16:00

*次号、8月号のロシアンティはお休みにさせていただきます。

●講演会

『日本とロシアの宇宙開発』鶴間陽世氏 (JAXA 職員)

日本の宇宙飛行士はロシアのロケットで宇宙に飛び立つ。ロシアと日本の宇宙開発・技術の歴史や状況、協力関係をJAXA職員の講師に語って頂きます。

日時：9月7日(土)14:00～16:00(開場13:30)

会場：日本記者クラブ(日本プレスセンタービル会場9F)

会費：会員/友好団体会員/一般学生1500円、一般2000円、
会員学生/留学生1000円

申込：会費区分・氏名・電話・E-mailを明記し協会まで。

懇話会スタッフ募集：gene.masuda@s8.dion.ne.jp 益田まで。

*お問い合わせ、お申し込みは協会事務局まで

Tel : 03-5563-0626 nichiro@nichiro.org



鳩山博士講演会 **ロシアと私=ロシアの社会インフラとロシア人気質について**

武川 覚威

IT化が加速する現代社会において、ある国の成長可能性を横串で図る際用いる定性的な指標として「ITプラットフォームの有無」「デジタルインフラの充足率」「次世代スケラブル産業の有無」が挙げられると考えている。これまで世界経済のリーダーとして在ったアメリカや、近年目覚ましい成長を遂げている中国など存在感のある国には、上記のすべてが揃っていたと感じている。



長している。もともとロシアにはソ連時代からの膨大な基礎研究があり、優秀な人材がいる。そのため、今回鳩山博士にお話していただいた交通インフラなども含め、凄まじいスピードで物事を変えることがこの国では可能となっている。

さてロシアはどうか。「ITプラットフォーム」についてはヤンデックスやmail.ruなどといった巨大な企業が存在する。(実際にUberやGoogleなどの米国企業がロシアに参入しているが、いずれもシェアを他の資本主義国家ほど拡大することができていない)「デジタルインフラ」については、2018年の行動計画により政府が先導しデジタルインフラの普及に力を入れている。当行動計画では2020年までの政府機関、自治体、重要輸送施設などにおけるブロードバンド接続率を100%とするなど、ソ連さながらの高い数値目標をおいている。(達成できそうか否かは別の話である。鳩山さんの講演でも言及されたが、なんせロシア人の目標は途中でどこまで下がるのか不確定である。しかしながら現状伸び率自体悪くない数値である事を踏まえると、当項目に関してはクリアしているのではないかと思える)

交通の発展は特に凄まじいことが各情報から読み取れる。これまで凸凹だった道路は少しずつ整備され、物流センターが作られ、一部の都市ではすでに自動運転車がヒトとモノを運んでいる。(ちなみにロシアの自動運転技術はCESで最も評価されている。モスクワ郊外のゴタゴタ道と悪天候下での試用運転が功を奏しているのではないかと考えている)

ともかくにもイレギュラーな国である。旧社会主義の雄であったという歴史的背景が起因してか、国の経済成熟度と教育のレベルが比例しない。貧富の差に関する議論はさておき、一度火蓋を切ってしまうと経済発展は中国やインド以上に目覚ましいのではないかと考えている。

「次世代スケラブル産業」については、ロシア国内のベンチャー企業が該当するのではないかと考えている。スコルコボやイノポリスを始めとした衛生都市を中心に研究開発型ベンチャーおよびそのコミュニティが目覚ましいスピードで成

日本という国はとにかく投資下手である。少しずつ成長している市場に対してはテクニカルな数値的根拠を示せるために手を付けるが、そうでないいわば「化ける」市場に対しては手を出さない。(エビデンスが出そうにも出せない)

我が国は隣にある広大な国の、目には見えない底力に今こそしっかりと向き合っていく必要がある、と日々感じている。(野村総合研究所コンサルタント)



**ロシア民謡を楽しむ会
指導の先生交代**

田中 徹

NPO日口交流協会に附属する「ロシア民謡を楽しむ会」は1995年創立後、今年で25回目の発表会を迎える事になりました。25年間に亘りロシア語でロシア民謡、歌曲、ロマンスを歌い続けてまいりましたが、残念ながら1999年よりご指導頂いた野村園子先生は今年の5月末を以ってご自身の健康状態を考慮され退任される事になりました。ほぼ20年間に亘り野村園子先生にご指導頂いた蓄積は計り知れなく、国内で知られているロシア民謡、歌曲、ロマンスと言える曲の大半はこの20年で歌い尽くしたといっても過言ではありません。

この6月15日のレッスンより新しくロシア人のミハイル・カンディンスキー先生をお迎えし10月19日(土)「麻布区民センターふれあいまつり」の発表会に臨む事となりました。ミハイル カンディンスキー先生は1973年モスクワ生まれ、大画家ワシリー・カンディンスキーを輩出したロシア家直系に当たります。1996年モスクワ音楽院を首席で卒業、更にグネーシン記念音楽院大学院にて研鑽を積み2001年来日、洗足学園音楽大学非常勤講師、上野学園大学音楽学部客員教授でもあり、東京ピアノコンクール、ショパンコンクール in Asia他各審査員をおつとめです。現在神奈川県にお住まいです。

会員は新しいカンディンスキー先生のご指導のもと、発表会に向けて張り切っております。課題曲は「輝け、輝け、私

の星よ」「赤いサラファン」「タベの鐘の音」「サラヴィイ=うぐいす」の4曲です。現在女声会員ソプラノ、アルトのパートを募集中です。勿論テノール、バスの会員も歓迎します。発表会まで4か月ですが新会員には特訓で対応しますので、事務局までご連絡下さい。



(ロシア民謡を楽しむ会会長) **カンディンスキー氏**

*なお、7月の練習日は6日に虎ノ門「とらトピア」、20日に新橋「ばるーん」301号室で14:00~16:00に行います。お問い合わせは岩間さん Tel:03-3357-6584 まで。

会員の皆様へ

来年3月の通常総会で役員改選が予定されており、本年9月に発足予定の次期役員候補推薦協議会にて総会で選任される役員推薦候補の協議が行われます。従来理事の皆様から推薦頂き新任候補の協議を行っていましたが、本年はこれと並行して会員の皆様より役員推薦候補者の公募を実施することとなりました。ロシアとの民間友好交流に興味があり、当協会のボランティアの日口交流活動に積極的に企画参画する意思のある候補希望者を募集するものとし年齢国籍は問いません。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。なお、応募者の推薦の是非は事務局による事前審査をへて上記協議会で決定されますので、公募が推薦を約するものではないことを予めご理解をお願いいたします。(事務局)



日口交流田植え体験会に参加して

相馬 奈津美

このたび日口交流協会常任理事の益田様にお誘いいただき一般参加しました。実は私、田植えをするのはまったくの初めて。数年前に一度だけ入った田んぼは、稲刈りの終わったカラカラの田んぼでした。そういう訳で田植えはやったことがない、一度で良いから水を張った田んぼに入りたい、そんな折、このようなイベントに参加できたことに感謝しています。

梅雨前にもかかわらず猛暑が続いた5月末でしたが、迎えた越谷の6月2日(日)は暑さも和らいだ曇り空で、絶好の田植え日和でした。出だしから地下足袋のコハゼに四苦八苦する一幕もありつつ、到着した先には赤いテープの張られた不思議な風景。すでに30人ほどの人が田植えを始めていました。

つま先から入って、抜いて進む。案内に従って実際に動いてみると、何とか歩けるので安心しました。ところが、いざ田植えを始めると、これが歩けない。①2、3本の苗をとって②親指・人差し指・中指でつまんで植えて③土を寄せる。その手順はシンプルで、慣れれば難しくはありません。問題はその後。一歩下がって次を植える。たったそれだけが非常に難しい。稲を植えるために立ち止まると、とにかく足が重たくなって抜けない。私が当日一番苦労したのは<歩くこと>でした。それが一番大変で、その分楽しかったです。

ところであの越谷の前日、とある和食屋で面白い貼り紙を見つけました。“一斗二升五合”(※5升の倍・升2つ・1升の半分で「ご商売、ますます、繁盛」という古典的な洒落)。



ロシアと日本の違うところ

土井 法子

ロシアでの約2年の任期を終え帰国しました。今回はロシアに住んで個人的に感じたことについてお話ししたいと思います。

①ロシアの日本食

海外に滞在すると、日本食が恋しくなります。私の住んでいたリャザン(モスクワから電車で約3時間の地方都市)でも日本食はとても人気がありました。しかし、ロシアの日本食といえば、和食レストラン以外にも、デリバリーやお持ち帰り寿司がとても人気でした。寿司といっても、カリフォルニアロールのような巻物系が主で食材もサーモンやアボカド、チーズなどが入っていて醤油とワサビにつけて食べます。リャザンでもワサビや海苔、味噌などは購入することができます。

②ウォッカを飲む人は意外と少ない？！

ロシアといえばウォッカですが、私が滞在していたリャザンでは、あまりお酒を飲む人は少なかったです。そもそもリャザンでは外食をするという人が比較的少なく、たまにレストランにいても、日本のようにお酒を飲みながら大勢で話す、という光景はあまり見られませんでした。友達に会う時もカフェやお家に行くことが多く、外食をしても22時頃には帰ります。日付が変わるまで飲むというのは珍しく、日本のサラリーマンのほうがお酒好きなのでは、と思うほどでした。また、リャザンが西ロシアに位置していることもあり、ヨーロッパのビールやグルジアのワインがスーパーには多くありました。

③リャザンの娯楽

私の住んでいたリャザンでは夏はダーチャでジャシリク(ロシアのバーベキュー)、冬はスケートが定番の娯楽です。どの



そういえば「斗」「升」「合」は米の単位です。「1合、2合、、、」は今でも炊飯器のメモリになっているし、米から造られる日本酒にも同じ単位が使われて「一

升瓶」といった居酒屋でお馴染みの言葉が残っています。パンや麺、ワイン、ビールではこういったユニークな数え方は(ぼぼ)ありません。昔から日本で米は特別なものだったのだなあ、なんてことを、たった今考えています。あの日お昼にいただいたオニギリは絶品でした。

当日はREUSEという施設の展望台にも上ることができました。つい先ほど自分の居た田んぼも、上から見るとまったく違って見えます。不思議だった赤いテープは何かの絵だったとわかります。また展望台には前年までの田んぼアートの写真がずらりと並んでいました。色の違う稲の解説もありました。誰かに質問された「どうして田んぼに絵を作るのか?」。何故でしょう。でも「なぜここで?」というところで技術力駆使してこだわっちゃう気持ちはわかります。

2019年の絵ができあがったころ、もう一度展望台に行きたいと思いました。機会があれば、稲刈りにも参加したいです。ありがとうございました。(IT企業)

家庭も町の郊外にダーチャという庭付きの家を持っているので、そこで夏の間は野菜を作ったりシャシリクをして過ごします。また自然の中で行うキャンプも人気があるそうです。雪の多い冬にはスケートは人気のスポーツで、リャザンのクレムリンの近くでは雪ぞりをして遊ぶ子供もいます。

④ロシア人と日本人の女の子のファッション

ロシアの女の子は体のラインをはっきりと出るようなファッションを好みます。また、色も赤やピンクなどの濃い色も好まれています。日本でいうラインを隠すような「ゆるふわ」タイプの女の子はあまり会いませんでした。また、ネイルも人気で、日本ではまだ敬遠されがちなタトゥーをしている人も結構います。髪型はロングのストレートの人が断然多く、外でも櫛で長い髪をとく姿をよく目にしました。寒い冬には分厚いコートの下は結構薄着です。ロシアの建物内はセントラルヒーティングが完備されているため、とても暖かく分厚いセーターを着ていると逆に汗ばむほどです。

⑤友達になるととても親切なロシア人

ロシアの人は日本人と同じくシャイな人も少なくありません。ですから、友達になるのには少し時間がかかりますが、いったん友達になってしまえば情が厚く、親身になってくれる人が多いです。私も現地でロシア人の友人ができましたが、病院に行ったり、買い物や郵便局で困っている時、いつも助けてもらいました。また、お家に招いてもらったり、ご家族と一緒に食事をしたりととても仲良くしてもらいました。

実際にロシアに住んでみると、意外に感じることや驚いたことも多くあり、充実した時間を過ごすことができました。(日露青年交流センター派遣リャザン国立大学日本語教師)(参考) リャザン大学日本語学科FB ページ<https://ja-jp.facebook.com/ryazan.jp/>

イルクーツクの街紹介

中川 愛理

皆さま、はじめまして。わたしは現在、東シベリアのイルクーツクにあるイルクーツク国立大学で日本語講師として勤務しています。昨年9月にイルクーツクに赴任して以来、ロシアでの生活もあっという間に10か月が経とうとしております。派遣されるまでは、私にとってロシアは遠く未知の国でした。ロシア語が全くできなかった私は、イルクーツクに来た当初は(今でも)右も左もわからず、挫けそうになったことが何度もありました。しかし、その度に手を差し伸べてくれたり、協力してくれたりする心優しいロシア人の同僚や学生たち、イルクーツクで生活する数少ない日本人の方々に支えられながら、今まで生活することができています。

今月から3か月にわたり月替わりで、私、イルクーツク国立大学で勉強するロシア人大学院生、日本人留学生三人が、皆さまにイルクーツクの町やイルクーツクでの生活の様子をお届けしていきます。この記事を読んでくださった方が一人でもイルクーツクに興味を持ってくださいますように。

それでは早速ですが、皆さま、ロシアのイルクーツクという町をご存知でしょうか？ひょっとしたら、ご存じでない方が多いかもしれません。では、「バイカル湖」をご存知でしょうか？ここでピンと来た方がいらっしゃるかもしれません。イルクーツクは、モンゴルのちょうど北に位置しており、世界で最も透明度が高く、最も深く、最も古い世界自然遺産の「バイカル湖」がある町です。昨年よりイルクーツクには春夏に成田からの直行便が運行を開始し、日本から5時間であるこ

とができるようになりました。時差も少なく、日本とは一時間しかありません。ただ、冬にはマイナス40度にもなる極寒の町に変貌を遂げます。

そんなシベリア、イルクーツクの町にも日本や日本語が大好きな多くのロシア人学生が日本語を勉強しています。4月には赴任しているイルクーツク国立大学で東シベリア地域日本語弁論大会、カラオケ大会が行われ、シベリアの様々な地域から多くのロシア人学生が参加しました。また、町の図書館や博物館で書道や折り紙のクラスを開講すれば、興味を持って足を運んでくださる一般のロシア人の方も非常に多く、日本への興味、関心の高さを感じます。

イルクーツクに住んでいる日本人は10人以下と日本人の少ない地ではありますが、イルクーツク—成田間の直行便が運行を開始したことで、町中で日本人の方を見かけることも増え、日本の方にも少し訪れやすい場所になったのではないかと思います。皆さま、機会があれば是非一度、雄大なバイカル湖を見にイルクーツクへいらしてください。

間もなく、イルクーツク生活一年目が終わろうとしています。二年目もイルクーツクと日本の心の距離がさらに近づけられるよう、自身にできることは何かを考え活動してまいります。(日露青年交流センター派遣、イルクーツク国立大学日本語教師)

(参考) イルクーツク国立大学日本語コース

Instagramページ:<https://www.instagram.com/irkutsknihongo>



ロシア・ベラルーシ連合20周年

イローナ・パルフェノワ

ロシア・ベラルーシ連合国家成立20周年記念コンサートおよびレセプションが4月18日在日ロシア連邦大使館で開催された。ベラルーシ共和国、カザフスタン共和国、アルメニア共和国、イスラエル、トルコ共和国他友好諸国の大使が招待された。



ベラルーシとロシアは最も近い本当の兄弟国である。幾世紀にわたり両民族を結びつけてきた絆、相互志向の経済、言語、伝統及び文化の同一性は当然の帰結として連合国家の成立へ導いた。

コンサートは広く明るいホールで行なわれた。ステージの脇にはモニターが設置され、素晴らしい諸都市の光景が映し出された。

記念式典では在日ロシア連邦ガルージン大使が挨拶し、兄弟国を結びつけている友好及び強固な関係を高く評価した。続いて在日ベラルーシ共和国大使が挨拶し、在日ロシア連邦大使館に対し、歓待に謝意を表すとともに兄弟国間の関係の一層の強化と拡大に対する期待を表明した。

記念式典終了後は、コンサートが行なわれた。コンサートにはベラルーシの舞台を代表する、ベラルーシ共和国功労歌手イリナ・ドロフェエワ、ポップグループ「クラソートキ」、ヴィチェフスク市「スラヴヤンスキーバザール」等多くの国際コンクールの受賞者アンドレイ・コロソフが出演し、ロシア語、ベラルーシ語及び日本語の歌が披露された。すべてのアーティストの高度な専門的技量と素晴らしい声楽の才能を特筆しておきたい。また、コンサートの全期間にわたり発言

者のスピーチのみならず歌の言葉と意味を訳してくれたヴィクトリアさんに感謝したい。

コンサート終了後、参加者は皆、立食パーティにいざなわれ、ロシア料理を堪能した。盛りだくさんのサラダ及び前菜、美味しい食事の数々、楽しい催しはどれも素晴らしいの一言だ。

この美しい催しにご招待いただき、ベラルーシ国民の一人として在日ロシア連邦大使館に感謝したい。心から有り難うございます。(ロシア語教師)

お知らせ

●イワン・クパーラ七夕祭

日時：2019年7月7日(日) 10:30～16:30

場所：猿島公園海岸

参加費：会員、外国人2000円、一般2500円、小学生1000円

●第40回戸田港祭り

日時：7月20日(土)

会費：会員のみ11000円(宿泊、懇親会費用)

●板橋花火大会を楽しむ日口交流の集い

日時：2019年8月3日(土) 18:00～

会費：会員のみ500円